

〈日本 SPF 豚研究会誌〉

「All about SWINE」投稿のお願い

SPF 豚の普及に役立つ調査・研究論文および防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA 4用紙に横書きで作成して下さい。手書きの場合は、400字詰原稿用紙を使用して下さい。
2. 原稿の1枚目には表題（英文表題も併記）、投稿者名（ローマ字表記も併記）、所属機関名（郵便番号および住所）を記して下さい。2枚目以降の記述形式は特に定めませんが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設けて下さい。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能なように白色紙または方眼紙に黒色で記入して下さい。写真は原寸印刷が可能なように原則として横7cm程度、縦7cm以下として下さい。
4. 原稿の送付先は「〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学大学院連合獣医学研究科 応用獣医学連合講座 浅井鉄夫」までお願いします。

〔編集後記〕

豚の疾病問題に対応する方法の一つとしてSPF養豚がスタートし、生産性から経費面に係る総合的な基準で認定制度を維持してきた。近年の薬剤耐性菌の問題に対し、畜産では「抗菌剤の慎重使用」が求められているが、日本SPF豚協会のSPF豚研究会や寄稿頂く原稿を見るにつけA薬品の実績には感心させられる。農場で制御しなけ

ればならない疾病が少なければ少ないほど、抗菌薬の使用を減らすことにつながることは明白である。

これまで、薬剤耐性菌の問題を理由に、行政により認められてきた抗菌性物質が行政の手によって使用が出来なくなった成分はアボパルシン・オリエンチンのみであった。今後、飼料添加物としてのコリスチンが同様となる。現状では、その影響は不明であるが、影響を最小限にするための情報収集が図られている。一方で、影響の程度は農場ごとに異なることも忘れてはいけない。

「All about SWINE」

第51号

2017年9月発行 定価1,500円

発行者 小林 秀 樹

編集者 浅 井 鉄 夫

発行所 日本 SPF 豚 研 究 会

事務局 (株)伊藤忠飼料研究所

予防衛生チーム内

〒325-0103

栃木県那須塩原市青木 919

Tel : 0287 (64) 3652

Fax : 0287 (63) 8384